



人と環境にやさしいトランジットモデル都市をめざして RACDA

第 216 号

2021 / 8

岡山の都心は再生成功！！！！

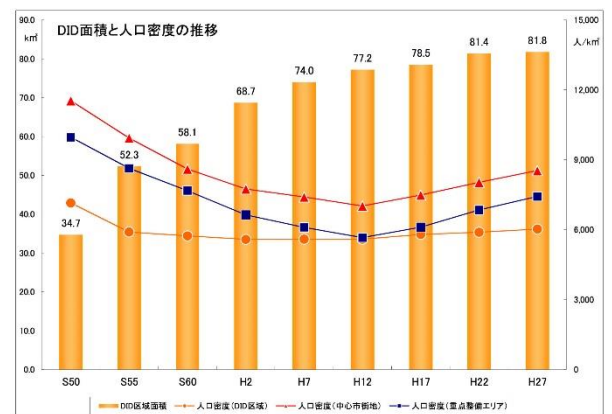
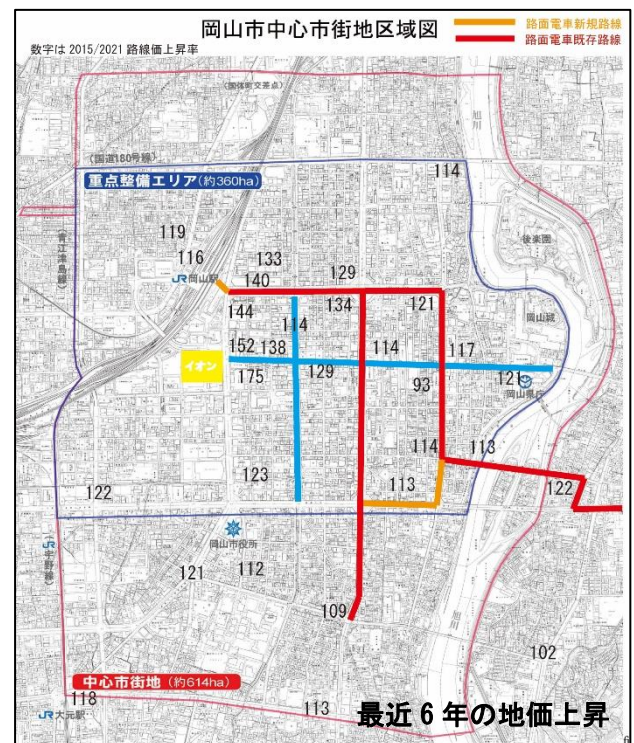
自然豊かな郊外拠点再生が課題

■岡山を面白くするための方策を考え続けて 35 年、1987 年の岡山県企画部の委託事業で岡山未来デザイン委員会が書いた「ネオ・商業エリア構想」では、路面電車の環状化や岡山城・後楽園連携、京橋朝市などの具体的提案を行い、京橋朝市のように 32 年継続しているものもある。

■岡山市が中心市街地とする範囲は、当初のネオ・商業エリア構想と一致する。路面電車環状化を目玉とする「都心 1km スクエア構想」は、この構想を当時岡山商工会議所副会頭になったばかりのベネッセの福武總一郎氏が、まちづくり委員長となって 1994 年までにまとめた。RACDA は会議所の別働隊として、1995 年に結成、建設省なども参加して岡山街づくり連絡協議会 UPCO を作り、岡山市の会議室で毎月会議を開き、1997 年の路面電車サミットや 1999 年の県庁通りトランジットモール実験などを実施。これらが国土交通省にも取り上げられ、「コンパクトシティ」として富山や札幌の路面電車環状化に繋がった。

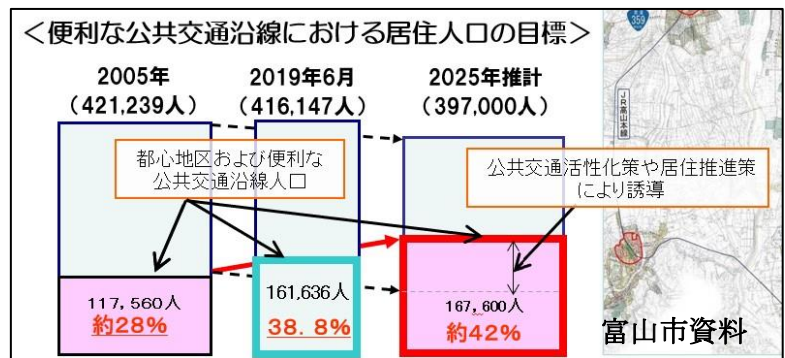
■岡山市中心市街地の人口は国勢調査によれば、1975 年に 70000 人ほどが 2000 年には 43000 人に減少し、反転して 2015 年には 52400 人となっている。特に最近 10 年を別の統計で見ると、確実に上昇している。25 年前「中心市街地なんかいない」と公言する人もいたが、岡山では県庁・市役所等公共施設や病院、商業施設の郊外移転を最小限に抑えられたと思う。イオンモールの岡山駅そばへの新規出店は、まさにそうした流れを読み切った、都心立地の実験店舗だったはず。地価の上昇を見れば、岡山の都心は再生している。

■一方 2005 年に都心の路面電車を廃止した岐阜市では、「柳ヶ瀬ブルース」で有名な柳ヶ瀬



商店街の入り込み数は 1992 年に対して30%になり、中心市街地の人口も20%以上減少しており、下げ止まらない。中心市街地計画面積は 170ha から 155ha に縮小した。

■コンパクトシティのモデルとなった富山市では、路面電車が環状化し、最近富山港線をリニューアルした富山ライトレールと環状線が直通し、都心の再生に成功しつつある。都心人口と地価上昇は岡山の方が顕著だが、富山市ではさらに早くから「立地適正化計画」に着手し、公共交通沿線への人口誘導を着実に加速している。



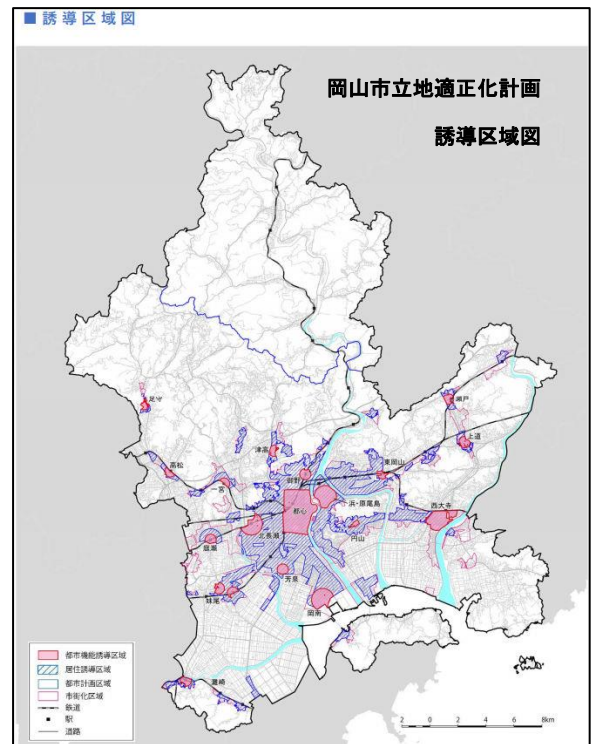
<https://www.city.okayama.jp/jigyosha/0000022637.html> 岡山市立地適正化計画

■岡山市立地適正化計画も今年 3 月に制定され地域での説明会が進むが、主に郊外の一部市民には戸惑いもある。3 戸以上の住宅開発は規制されるなど私権の制限と受け取るだろう。だが放置すると平野の広い岡山では道路も公共施設も維持できず、人口密度が維持できなければ、バスも電車もなくなる。

■実はどの地方でもコンパクトシティの人気は良くないが、自動車前提の今までの政策を続けている限り、人口減少、地域衰退は避けられず、東京大阪の大都市に人口を吸い取られるばかりである。皆さんの周囲をみれば、ドンドン若者がいなくなっているはず。

■一方、東日本大震災以来、原発自主避難者は 2000 人以上岡山県に移住しており、「岡山現象」ともいう。原発から十分離れ、安全な野菜が手に入り、新幹線も電車バスも便利で、地震が少なく温暖で、安全なイメージがあり、そこそこの人口規模と文化程度で、大都会ほどの緊張感はない。郊外の田園や瀬戸

内海のゆったりした自然も吸引力を持ち、既に大都会の生活に限界を感じていた人々が、岡山を選んでいる。3 年前の真備水害では安全イメージが崩れ流入は止ったが、コロナ禍以来大都会に比べて、相対的な安全イメージが戻り、移住増加になっているはずだ。既に岡山は選ばれつつある、ならばその特徴をうまく伸ばせば、日本の新しい文化を牽引できるはずだ。



NPO 法人公共の交通ラダ(RACDA)

事務局 〒700-0823 岡山市北区丸の内 1-1-15 禁酒会館 3F TEL&FAX 086-232-5502

E-mail: info@racda-okayama.org

URL: <http://www.racda-okayama.org>

RACDA

検索

